

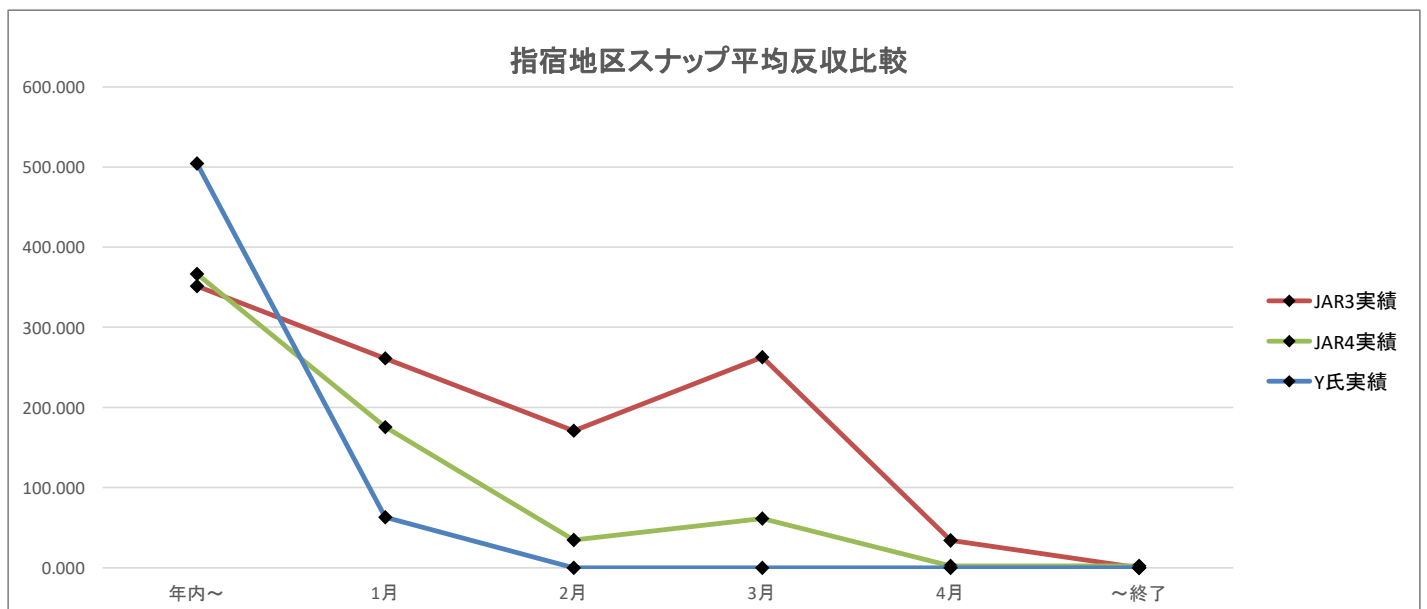
# 指宿市(指宿地区)寒波に対する実証試験結果(スナップえんどう)

単位(ha, kg/10a)

	面積(ha)	年内～	1月	2月	3月	4月	～終了	合計
R3JAいぶすき(指宿) スナップえんどう出荷実績 (反収)	38	351.6	261.3	171.1	262.9	33.9	0	1,080.8
R4JAいぶすき(指宿) スナップえんどう出荷数量 (反収)	39	366.7	175.4	34.6	61.5	2.3	2.3	642.8
指宿地区耕作Y氏反収	0.205	504.4	62.9	0	0	0	0	567.3

※「年内～」は収穫開始から12月末までの実績,「～終了」は5月から収穫終了までの実績

指宿地区	スナップ反収
A 令和3年産JA	1080.8kg
B 令和4年産JA	642.8kg
C Y氏	567.3kg
減少率(1-(C/A))	47.5%



## 【結果及び考察】

寒波後の令和5年1月26日に樹勢回復を図るために摘莢作業を実施。

また、1月28日に葉面散布を実施した。

しかし、樹勢が回復することなく、株全体が枯死してきたため、2月21日以降に片付けを行った。

実績としては、JAの令和3年度産(反収1,080.8kg/10a)の実績に比べ47.5%減収(反収567.3kg/10a)となった。

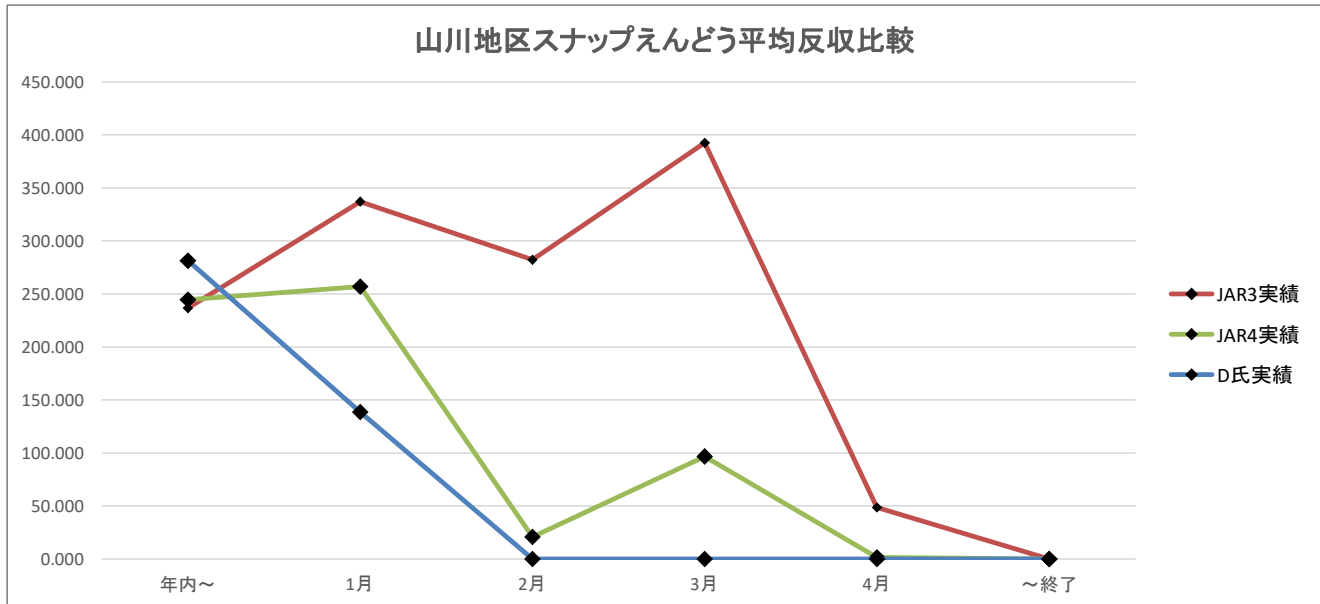
# 指宿市(山川地区)寒波に対する実証試験結果(スナップえんどう)

単位(ha, kg/10a)

	面積(ha)	年内～	1月	2月	3月	4月	～終了	合計
R3JAいぶすき(山川) スナップえんどう出荷実績 (反収)	41	236.6	337.1	282.2	392.4	48.5	0.0	1,296.8
R4JAいぶすき(山川) スナップえんどう出荷数量 (反収)	42	244.5	256.9	20.7	96.7	1.4	0.0	620.2
山川地区耕作者D氏反収	0.44	281.2	138.6	0.0	0.0	0.0	0.0	419.8

※「年内～」は収穫開始から12月末までの実績,「～終了」は5月から収穫終了までの実績

山川地区	スナップ反収
A 令和3年産	1296.8kg
B 令和4年産	620.2kg
C D氏	419.8kg
減少率(1-(C/A))	67.6%



## 【結果及び考察】

寒波後の令和5年1月29日に樹勢回復を図るために葉面散布を実施。

1月30日から31日にかけて摘莢作業を実施し, 2月6日・16日・25日に再度葉面散布を実施。

しかし, 2月以降の出荷は霜莢のため出荷できず, 3月16日に片付けを実施した。

実績としては, JAの令和3年度産(反収1296.8kg/10a)の実績に比べ67.6%減収(反収419.8kg)となった。

# 指宿市(指宿地区)寒波に対する実証試験結果(実えんどう)

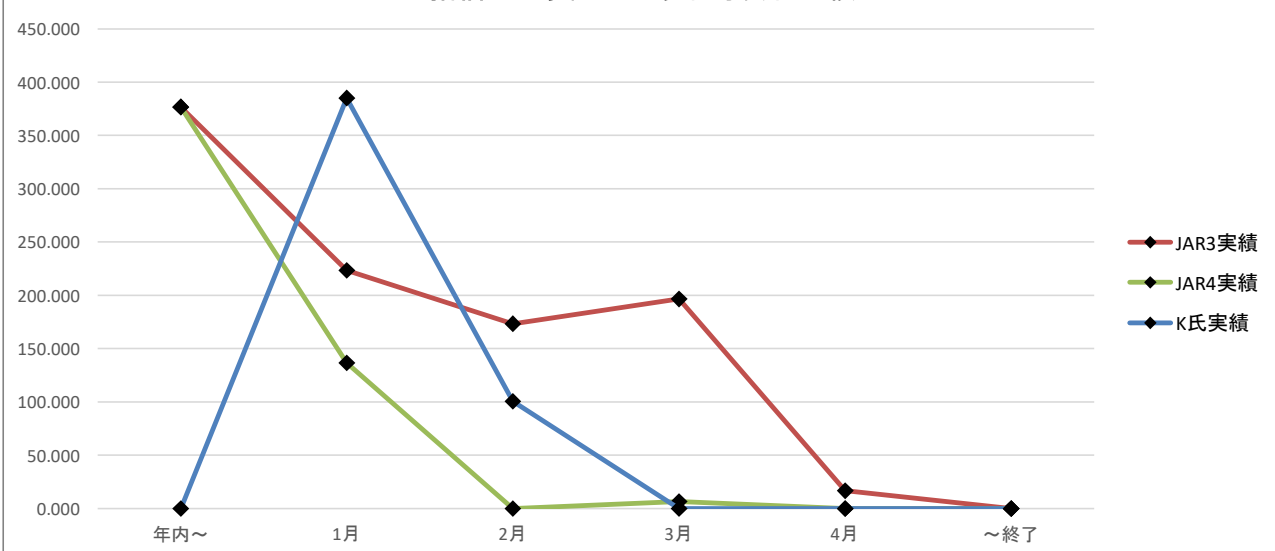
単位 (ha, kg/10a)

	面積 (ha)	年内～	1月	2月	3月	4月	～終了	合計
R3JAいぶすき(指宿) 実えんどう出荷実績(反収)	3	376.7	223.3	173.3	196.7	16.7	0	986.7
R4JAいぶすき(指宿) 実えんどう出荷数量(反収)	3	376.7	136.7	0	6.7	0	0	520
指宿地区耕作K氏反収	0.095	0	385.2	100.6	0	0	0	485.8

※「年内～」は収穫開始から12月末までの実績、「～終了」は5月から収穫終了までの実績

指宿地区	実えんどう反収
A 令和3年産JA	986.7kg
B 令和4年産JA	520.0kg
C K氏	485.8kg
減少率(1-(C/A))	50.8%

指宿地区実えんどう平均反収比較



## 【結果及び考察】

寒波後の令和5年1月26日から27日にかけて樹勢回復を図るために摘莢作業を実施。

また、1月28日・31日に葉面散布を実施した。

少しでも収量を確保するために軽度の霜莢についてはC品で出荷を図ったが、株全体が枯死してきたため、2月14日以降片付けを行った。

実績としては、JAの令和3年度産(反収986.7kg/10a)の実績に比べ50.8%減収(反収485.8kg/10a)となった。

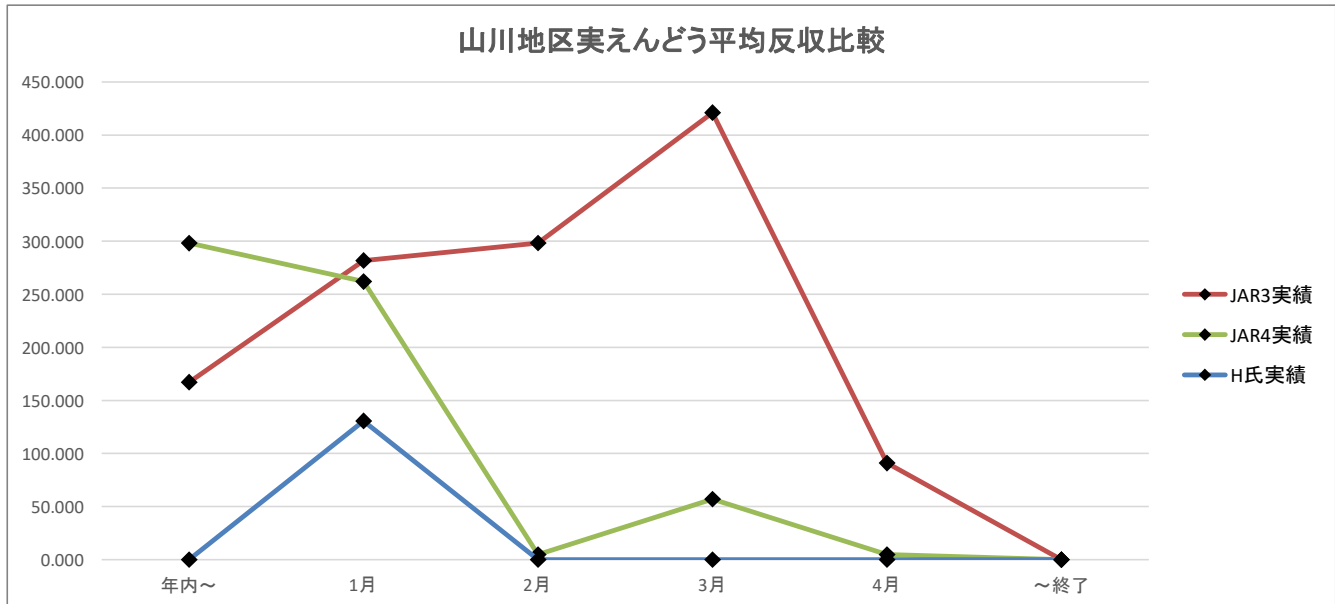
# 指宿市(山川地区)寒波に対する実証試験結果(実えんどう)

単位(ha, kg/10a)

	面積(ha)	年内～	1月	2月	3月	4月	～終了	合計
R3JAIぶすき(山川) 実えんどう出荷実績(反収)	11	167.3	281.8	298.2	420.9	90.9	0	1,259.1
R4JAIぶすき(山川) 実えんどう出荷数量(反収)	10.5	298.1	261.9	4.8	57.1	4.8	0	626.7
山川地区耕作者H氏反収	0.08	0	130.8	0	0	0	0	130.8

※「年内～」は収穫開始から12月末までの実績、「～終了」は5月から収穫終了までの実績

山川地区	実えんどう反収
A 令和3年産	1259.1kg
B 令和4年産	626.7kg
C H氏	130.8kg
減少率(C/A)	89.6%



## 【結果及び考察】

寒波後の令和5年1月26日に樹勢回復を図るために葉面散布を実施。

1月28日には摘莢作業を実施した。

しかし、株全体が枯死したため3月7日に片付けを実施した。

実績としては、JAの令和3年度産(反収1,259.1kg/10a)の実績に比べ89.6%減収(反収130.8kg/10a)となった。

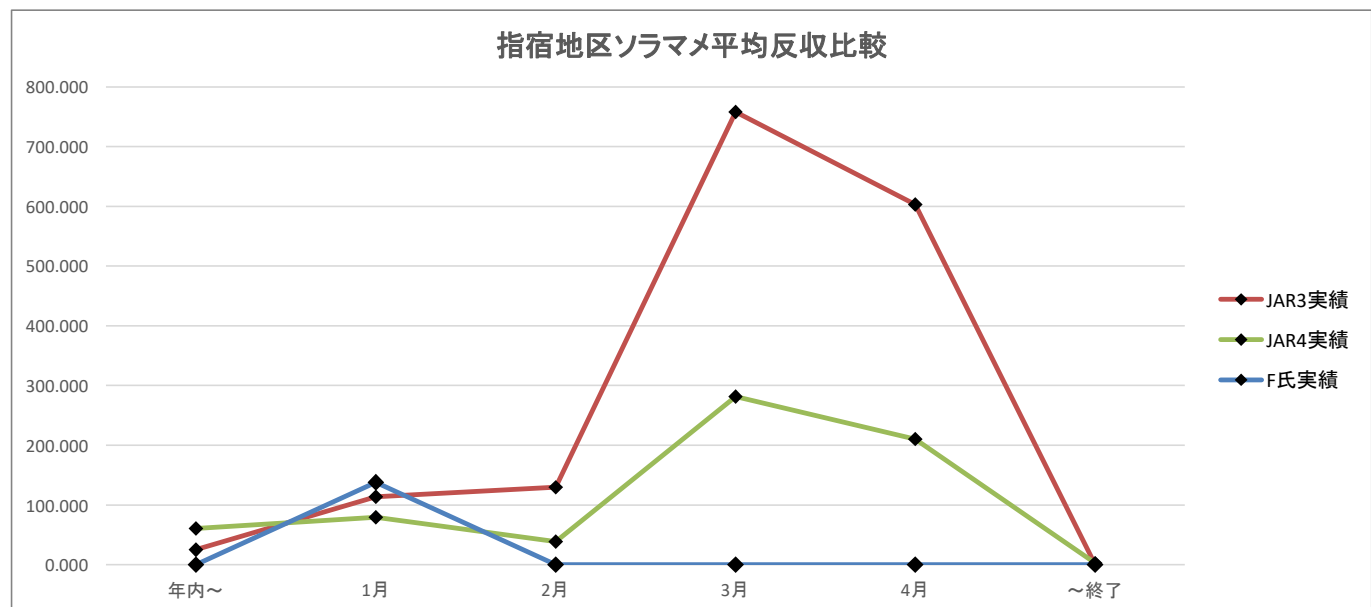
# 指宿市(指宿地区)寒波に対する実証試験結果(ソラマメ)

単位(ha, kg/10a)

	面積(ha)	年内～	1月	2月	3月	4月	～終了	合計
R3JAいぶすき(指宿) ソラマメ出荷実績(反収)	20.2	25.2	113.9	129.7	757.9	603.0	0	1,604.5
R4JAいぶすき(指宿) ソラマメ出荷数量(反収)	20.1	60.7	79.6	38.8	281.6	210.4	2.49	612.9
指宿地区耕作F氏反収	0.09	0	138.2	0	0	0	0	138.2

※「年内～」は収穫開始から12月末までの実績,「～終了」は5月から収穫終了までの実績

指宿地区	ソラマメ反収
A 令和3年産JA	1604.5kg
B 令和4年産JA	612.9kg
C F氏	138.2kg
減少率(1-(C/A))	91.4%



## 【結果及び考察】

寒波後の令和5年1月26日から28日にかけて樹勢回復を図るために摘莢作業を実施。

また1月29日に葉面散布を実施した。

しかし、樹勢が回復することはなく、株全体が枯死してきたため、2月1日以降片付けを行った。

実績としてはJAの令和3年度産(反収1,604.5kg/10a)の実績に比べ91.4%減収(反収138.2kg/10a)となった。

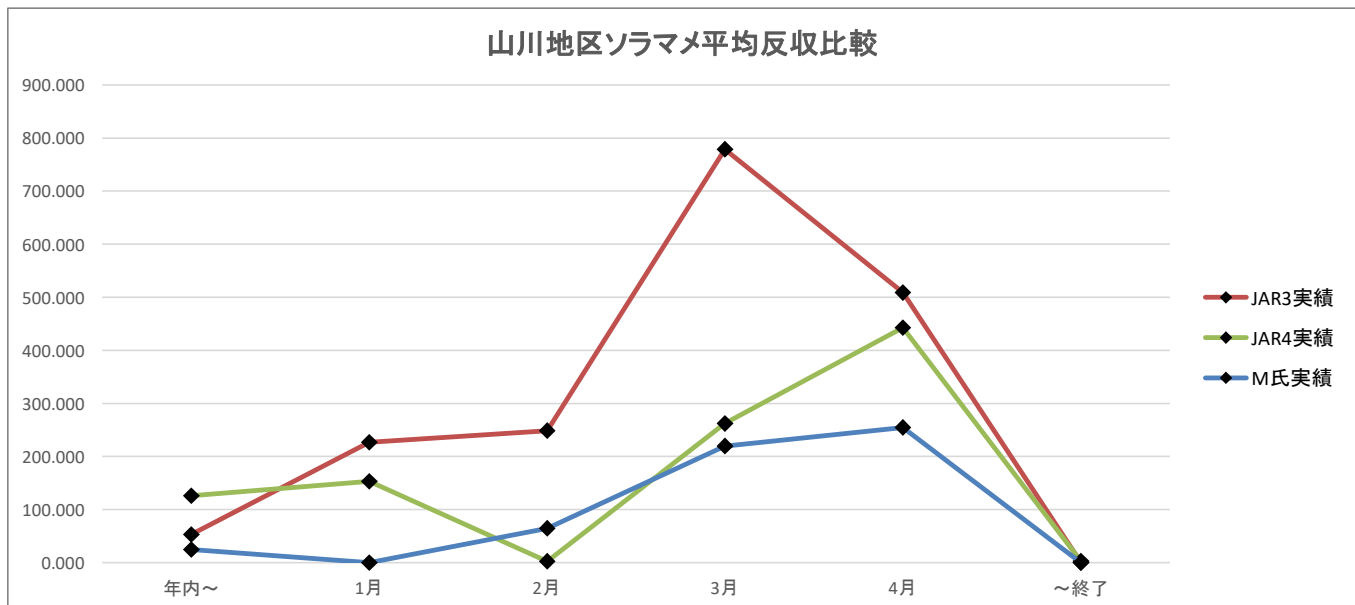
# 指宿市(山川地区)寒波に対する実証試験結果(ソラマメ)

単位(ha, kg/10a)

	面積(ha)	年内～	1月	2月	3月	4月	～終了	合計
R3JAいぶすき(山川) ソラマメ出荷実績(反収)	66.9	53.4	226.8	248.9	778.8	509.0	0.4	1,817.2
R4JAいぶすき(山川) ソラマメ出荷数量(反収)	60.7	126.2	153.4	2.5	262.3	442.5	3.3	990.1
山川地区耕作者M氏反収	0.09	24.8	0	65.0	219.8	254.7	0	564.2

※「年内～」は収穫開始から12月末までの実績,「～終了」は5月から収穫終了までの実績

山川地区	ソラマメ反収
A 令和3年産	1817.2kg
B 令和4年産	990.1kg
C M氏	564.2kg
減少率(1-(C/A))	69.0%



## 【結果及び考察】

寒波後の令和5年2月11日に樹勢回復を図るために摘莢作業を実施。

2月以降収穫が可能な状態となり, 4月まで収穫を実施し, 5月6日に片付けを実施した。

実績としては, JAの令和3年度産(反収1,817.2kg/10a)の実績に比べ69%減収(反収564.2kg/10a)となった。

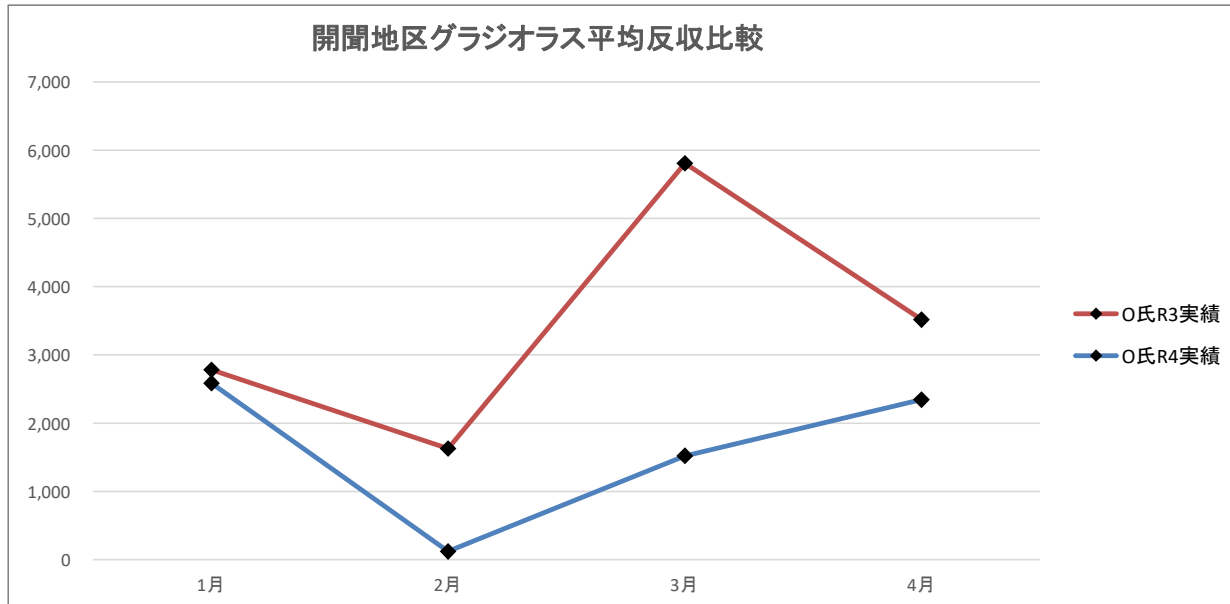
# 指宿市(開聞地区)寒波に対する実証試験結果(グラジオラス)

単位 (ha, 本/10a)

	面積 (ha)	1月	2月	3月	4月	合計
R3グラジオラス出荷数量 (反収)	1.42	2,782	1,627	5,806	3,515	13,730
R4グラジオラス出荷数量 (反収)	1.42	2,587	121	1,521	2,344	6,573

※R3は2022年1月～4月 R4は2023年1月～4月

開聞	グラジオラス
B O氏令和3年	13730.0kg
C O氏令和4年	6573.0kg
減少率(1-(C/A))	0.5kg



## 【結果及び考察】

寒害後の令和5年2月1日・15日・3月1日に樹勢回復, 病害防除のため薬剤散布を実施した。

被害後は選別を徹底しながら出荷を実施し, 出荷が見込めない一部のは場については, 次年度用の球根として活用を図った。

実績としては, 令和3年度産 (反収13,730本/10a) の実績に比べ52.1%減収 (反収6,573本/10a) となった。

## 寒波等による農作物等の被害からの早期の生産回復 営農再開に向けた対策に係る実証事業総括

今回、寒波等被害早期生産回復・営農再開対策実証事業に取り組むにあたり、寒波被害後に、早期の営農再開・生産回復のため実施した追加的な薬剤散布及び液肥等の葉面散布や摘果作業（豆類）による収量の変化について調査を行い、これらの対策の効果の実証を行った。

薬剤散布（葉面散布）は、被害後の植物体の樹勢を回復すると共に、樹勢低下時に懸念される罹病による2次被害の予防の効果が期待される。

摘果作業は、植物体にかかっている負荷を取り除くことで樹勢の回復効果が期待される。

実証の方法として、スナップえんどう、実えんどう、ソラマメ、グラジオラスの作物ごとに、30件に1件の割合で、最低2件となるよう標本を抽出の上、その反収を調査し、JAいぶすき全体の平均反収との比較を行った。ただし、グラジオラスについては申請が1件しかなく、JAにも出荷データがないため、単独での調査となった。

スナップえんどうについては、標本2件とも被害後に摘莢と葉面散布を行ったが、被害が大きく回復が見込めなかったため、2月以降の収量は「0」であった。

実えんどうについても、標本2件とも被害後に摘莢と葉面散布を行い、その内山川地域の標本では、やはり2月以降の収量は「0」であったが、指宿地域の標本では、2月にJAいぶすきの平均を上回る反収を得られたことが確認できた。これは追加の被害対策作業の効果である事が考えられる。

ソラマメについては、指宿地域の標本で摘莢と葉面散布を行ったが、2月以降の収量は「0」であった。山川地域の標本では、摘莢を行った結果、2月にJAいぶすきの平均を上回る反収を得られ、以降はJAの平均反収は下回るものの一定の反収を得られたことが確認できた。両者の違いについては、被害前に生長点の摘心を行っていたか否かにあると考えられる。指宿地区の標本では摘心済みであったが、山川地区では摘心未実施であったため、その後回復、開花・着果し、被害後も収穫ができたものと思われる。このことから、被害に備え、摘心時期をずらすなどの検討を行い、被害に遭った後も摘果作業を行うことで、一定の収穫量を得ることができると考えられる。

開聞地区のグラジオラスにおいては、薬剤散布を実施し、選別を徹底することにより、2月以降も一定の収穫量を得ることができている。

全体として、2月以降の反収が「0」となっている標本が多かったが、これは、特に被害が大きかった生産者が本事業の申請を行っていることも理由の一つとして考えられる。

ただ、そのような中でもJAの平均反収を上回る標本があり、寒波被害後の薬剤散布及び液肥等の葉面散布や摘果作業を行うことで一定の収穫量を得られるという効果を確認することができた。